



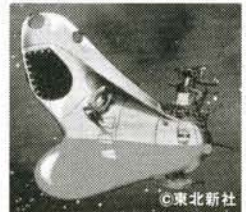
蓄電容量は「ヤマト」シリーズ(写真左:ヤマト9600)で4.8KW、9.6KW、19.2KWの3種類(各20時間率) 室内用「ゼロA」(写真右)が4.8KW(20時間率)

経済的な利益は生みませんが停電時の電源が確保できます

## 愛する人や、みんなのために

家庭用蓄電システム「宇宙戦艦ヤマト」を製造販売

(株)プラン



©東北新社

「安全で豊かな未来を次代の子供たちに引き継ぐのが私たちの使命だと思えます。そのために、省エネや省資源という課題に、若い元気な人は我慢をしたり、経済的にゆとりのある人は太陽光発電を設置したり、で

きる人が、それぞれの方法で取り組めばいいんです。しかし、夏の猛暑や冬の寒い時など、乳幼児や高齢の方々、また、病気や障害を持ち緊急時に助けを求めることができず空調の設備を欠かすことができない弱い立場の人たちのためには、停電時の蓄電池は必需品なのです。また、学校や工場、大規模マンションなどでは非常時のライフラインを維持する電源としても機能します。しかし、蓄電池は、確かに太陽光発電のように経済的な利益を生むものではありません。むしろ大きな負担になりませんが、愛する人やみんなのために設置していただければと願っています」と、熱く語るのは(株)プランの大村広司会長である。(株)プランは、1957年に創業され、現在、年間約4千万部の絵本を製造、わが国の絵本製造界を代表する大村製本(株)のグループ会社であり、1975年に設立されている。

絵本を1冊から制作できるというオンデマンド印刷システムやマイク ロメータ単位での取り込みができる高精度スキャナーの開発等で知られる技術志向の企業であるが、グループ創業以来、福祉などのボランティア活動に注力してきたという企業カラーを持ち、同社の大村会長も、10年ほど前にはスリランカでボランティア活動に従事。今回の蓄電池の開発に当たっては、スリランカでの活動の中、現地での電力調達の必要性から、その開発に取り組んできたという経緯を持っており、大村会長が2004年のスリランカの津波災害で大打撃を受けた、いわばその「リベンジ」でもあると言う。

発しており、製品名は、スバリ「宇宙戦艦ヤマト」である。劇画「宇宙戦艦ヤマト」の「熱狂おたく」を自認する大村会長が、その主人公・古代進の「愛する人と地球を救うために」という熱い思いに魅せられて、自らが、その商標使用权を持つ東北新社にお願いして使用の承認を受けての命名であるという。工事は簡単で導入しやすいという特長を持ち、太陽光発電機との連動も可能で、オプションで、タイマーによる自動充電切り替えもできる。現在、全国に32店舗の代理店網を整備しており、本格的な販売体制を充実させている。

太陽光発電用蓄電池の製作や、OEM生産、そして「省電力で経済的」と人気を集めているLED電球の販売とリース、電気バイクの販売も行っている。

また「子供たちに未来を」というのが同社の企業方針で「全社員がボランティアを率先して行えるような社風と余力を勝ち取ることができるよう」という夢を持っている。

なお、蓄電能力や、実際の使用例に関しては同社ホームページを参照してください。

<http://www.kamiwaza.jp>  
埼玉県児玉郡上里町七本木三田3705  
☎0495・333・2318